

犬ヶ岳地域は、大分県の北部に位置しており、そのほとんどは耶馬日田英彦山国定公園に含まれています。英彦山から犬ヶ岳、経読岳、雁股山へと続く長い尾根は、福岡県との県境になっています。この尾根上には九州自然歩道が設けられており、早くからブナなどの自然林が残されていました。また、犬ヶ岳を中心とした山頂尾根一帯には、広くツクシシャクナゲが群生しており、その自生地として国の天然記念物に指定されています。



経読岳より犬ヶ岳を望む



ツクシシャクナゲ



ブナ



ゴショイチゴ[IA]の花と果実



ブナの林内をおおうクマイザサ



ブナの樹幹に着生するアオベンケイ



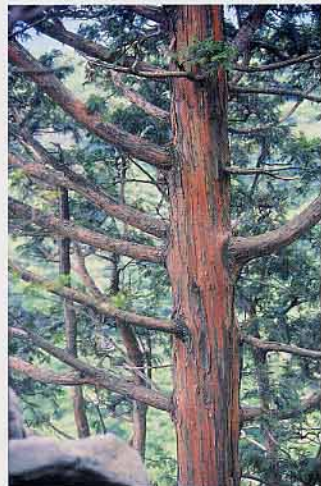
ヒロハテンナンショウ [II]

特徴的な植物

この地域は古い時代の複雑な火山活動により生じた広大な溶岩台地が山国川の侵食作用を受けて形成された全国でも有数のメサ・ビュート地形です。山頂帯・尾根の標高はおおむね800～1000m、比較的平坦で、土壌も厚く、プナやアカガシの森林が発達しています。しかし、尾根周辺の侵食面では、断崖、絶壁の急峻な地形をなし、ヒノキやゲンカイツツジなどが生育しています。また、九州の北部に位置することから、タムシバなどの日本海地域の植物も多くみられます。



おいづる
笈吊岩



笈吊岩に自生するヒノキ〔Ⅱ〕



鋸岩



鋸岩に自生するゲンカイツツジ〔準〕



タムシバの花



日本海要素の植物タムシバ

「レッドデータブックおおいた」の植物

2001年に発行された「レッドデータブックおおいた」には、県内に生育する絶滅のおそれのあるシダ・種子植物708種がとりあげられ、その危険度により絶滅危惧〔ⅠA〕,〔ⅠB〕,〔Ⅱ〕,〔準〕にランクされています。今回の調査で、この地域には、ゴショイチゴやサルメンエビネなどの絶滅危惧種が76種生育していることが分かりました。



トリガタハンショウヅル〔Ⅱ〕



アオバスゲ〔準〕



サルメンエビネ〔ⅠB〕